

第3章 現状・課題と第3次計画における取り組み

| 現状・課題・要望等 | | 第3次計画の取り組み |
|-----------|--|--|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○障がいのために差別をうけたり、いやな思いをした人の割合は低下しているが、精神障がいのある人、障がいのある児童ではいやな思い等を経験している人が40%以上と高くなっています。 ○いやな思い等をする場面としては、いずれの障がいも「地域社会」が最も高く、次いで障がい者は「職場」、障がい児は「学校」が高くなっています。 ○知的障がい者の成年後見制度の利用意向が高くなっています。 ○社会モデルの考え方、合理的配慮、インクルージョン、障害者権利条約、差別解消法など、十分理解が進んでいません。 ○精神障がい者、知的障がい者は、近所付き合いをほとんどしていない割合が高くなっています。 | <div style="background-color: black; color: white; padding: 10px; writing-mode: vertical-rl; font-weight: bold; font-size: 1.2em;"> ① 障がいのある人の権利を守ります </div> |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○親亡き後のためにも権利擁護支援センターの設立が望まれています。 ○家族の事情により緊急にショートステイを利用したくても預けられる施設がない。 ○精神障がい者に対応した短期入所施設がない。 | |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○成年後見制度の仕組み、内容は十分に理解されていません。 ○特に親亡き後も、財産管理だけでなく、本人の意思が尊重され、生活支援が行われるなど、幅広い権利擁護が求められています。 ○単純に手話ができる、できないではなく、聴覚障がいのある人たちへの理解や関わる人たちが増えればいいと思います。例えば、初級の手話講座など、専門職をたくさん作るというよりも、関心のある方を増やすような観点も考えていただきたい。 ○緊急時の受入・対応について、入所施設では今までも緊急時ではできるだけ受けるようにしていたが、受給者証のない方や、健康診断もない人などを受け入れるのは不安があります。 ○医療行為の同意など難しい問題について、検討を重ねていければと思います。 | |

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|---|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○知的障がい者のグループホームのニーズは依然として高い。 ○知的障がい者等のショートステイのニーズが高い。 ○身体障がい者で医療ケアが必要だと、放課後等デイサービス、ショートステイなど、利用できる事業所がとたんに少なくなります。 ○付き添い入院をする家族の負担を軽減するため、入院した時に使えるサービスがほしい。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○通所、通学のための移動支援を認めてほしい。 ○週末にグループホームから帰宅する際、親が送迎しているが、将来的に不安があります。 ○生涯グループホームで過ごせるか不安があります。 ○入所者が通所できる日中活動の場が近くにあるといい。 ○24時間体制の事業所（ヘルパー事業所）があるといい。 ○就労継続支援事業所の質の確保が求められます。 ○事業所(法人)にとって人材不足が切実な問題となっています。 |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループホームを作るのは厳しい。新築でバリアフリーにしてスプリンクラーも設置するというのが一番いいのだろうが、国の補助はそうそう出ないので、市でもう少し考えていただきたい。 ○高齢の聴覚障がい者のためにも、手話の対応ができるデイサービスがあるといい。 |



| 第3次計画の取り組み |
|---------------------------------|
| <p>② 障がいのある人の生活を守ります</p> |

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|---|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○精神障がい者の一般就労、就労系サービスの利用意向が高くなっています。 ○仕事のことで困っている精神障がい者の割合が高くなっています。 ○知的障がい者の「正規職員」として働きたいという希望が多くあります。 ○精神障がい者のうち、5年以上仕事に従事している割合が、3年前と比べて大幅に減少している。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○一般就労や施設外就労など、企業との連携が求められています。 ○定年後の就職ですが、聴覚障がいという理由で門前払いされたことがあります。 |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○小牧市では、企業規模に関係なく障害者雇用促進奨励金を出していることは、充実した補助として誇れることだと思います。 ○小牧市で就職イベントがあれば、小牧の求職者が来てくれると思うので、ぜひ就職フェア等を小牧市で開催してほしい。 |

第3次計画の取り組み

③障がいのある人の就労を支援します

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|--|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○児童発達支援の充実を望む割合が高くなっています。 ○障がい児の主な支援者（母親）の50%以上がフルタイム、パートで働いています。 ○放課後等デイサービスのニーズは非常に高くなっています。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○放課後等デイサービス事業所の質の確保が求められます。 ○子育てに不安がある親への支援が必要です。 ○不登校の子どもに対しては学校との連携が必要です。 |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○あさひ学園をどうするかではなく、あさひ学園だけだと対応できない部分について、児童発達支援センターを含めて検討していく必要があります。 |

第3次計画の取り組み

④障がいのある人の療育を支援します

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|---|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○障がい児は、専門的な治療ができる病院が近くになくて困っている割合が高くなっています。 ○精神科医療では、病気の症状が正しく伝えられないことで困っている割合が高くなっています。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○小牧市民病院の精神科の縮小が心配です。 ○通院できない人への支援や事業所が独自に実施している健康診断に補助があるといい。 ○在宅医療を担える医療機関が市内に増えるといい。 ○保健所の保健師の人数を増やして家庭訪問を積極的に実施してほしい。 ○難病患者の地域生活を支えるためにも、医療、保健、介護等関係者が連携してほしい。 |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○全国の地方の公立病院の精神科の縮小が続いており、市民病院の精神科の縮小にも不安があります。地域移行した後、地域で医療支援なり生活支援なりというところをセットする必要があります。 |

第3次計画の取り組み

⑤ 障がいのある人の地域医療を確保します

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|--|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○イベント等の参加にあたり、困っていることとして、施設等がバリアフリーになっていない、移動手段が確保できない、付き添い・ヘルパーが確保できないなどの課題があげられています。 ○精神障がい者は、現在とは違う過ごし方を希望している割合が高い。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○タクシー券の助成内容を充実してほしい。 ○巡回バス等の公共交通機関を充実してほしい。 ○聴覚障がい者でも意思疎通支援事業を知らない人が多く、周知をはかってほしい。 ○参加できる余暇活動が見つからない。 ○土日でも利用できる余暇活動の場があるとよい。 ○手話で交流できるサロンがあるといい。 ○障がい者が気軽にしゃべれる場所があるといい。 ○支援者や地域の人などが、ざっくばらんに話し合える場があるといい。 ○一般就労している方の社会的孤立を防ぐため、気軽に参加できるサロンなどがあるといい。 |

第3次計画の取り組み

⑥ 障がいのある人の社会参加を促進します

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|---|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○災害時に困ることとしては、「災害の状況がわからない」「誰に救助を求めたらいいかわからない」が上位を占めています。 ○避難所で困ることとしては、「トイレのこと」「薬や医療のこと」などが多く、ベッドが必要、大勢の人と過ごせないなどの意見がありました。 ○バリアフリーが進んだという評価は高くなっていません。意見として、公共交通機関の利便性、バス停・駅舎、歩道・道路、車いす用駐車場の整備・改善に関する内容が多数ありました。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○障がい者を対象とした避難訓練を実施してほしい。 ○市の防災訓練に参加したい。 ○すべての避難所に車いすトイレを設置してほしい。 ○避難行動要支援者台帳がどのように活用されているのかわからない。 ○避難所における電源の確保をしてほしい。 ○駅に点字ブロックを設置してほしい。 ○側溝の網のふた、歩道の傾斜など車いすへの配慮がほしい。 |
| 委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ○福祉避難所について、力を持った事業所や人材を有効的に活用できるように、市が積極的にマネジメントしてほしいと感じています。 ○災害時のトイレにしても、障がい者が使用できるトイレはありません。健常者から見る現状と、障がい者から見る現状が違うことを、しっかりと体験して知っていただきたい。 ○バス停の時刻表の下のブロックが歩道に飛び出していることが多く、車いすがぶつかって転んだり、視覚障がい者が転んだりしているので考えてほしい。 |

第3次計画の取り組み

7 障がいのある人の環境を整備します

| 現状・課題・要望等 | |
|-----------|---|
| アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ○すべての障がい種別において相談支援の利用意向が高くなっています。 ○精神障がい者をはじめ、どこに相談に行ったらよいかかわらないと回答している人がかなりあります。 |
| ヒアリング | <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援協議会がもっと活性化するといい。 ○相談員の質の向上が求められています。 ○相談員が不足しており、確保が必要です。 ○外国人の相談で言葉が通じなくて困ることがあり、通訳の派遣があるといい。 ○若年の難病患者の相談先がわからない。 |

第3次計画の取り組み

8 障がいのある人の相談支援を充実します